



古本のリユースを活用した寄附 ～ 株式会社バリューブックス「チャリボン」の取組 ～

概要

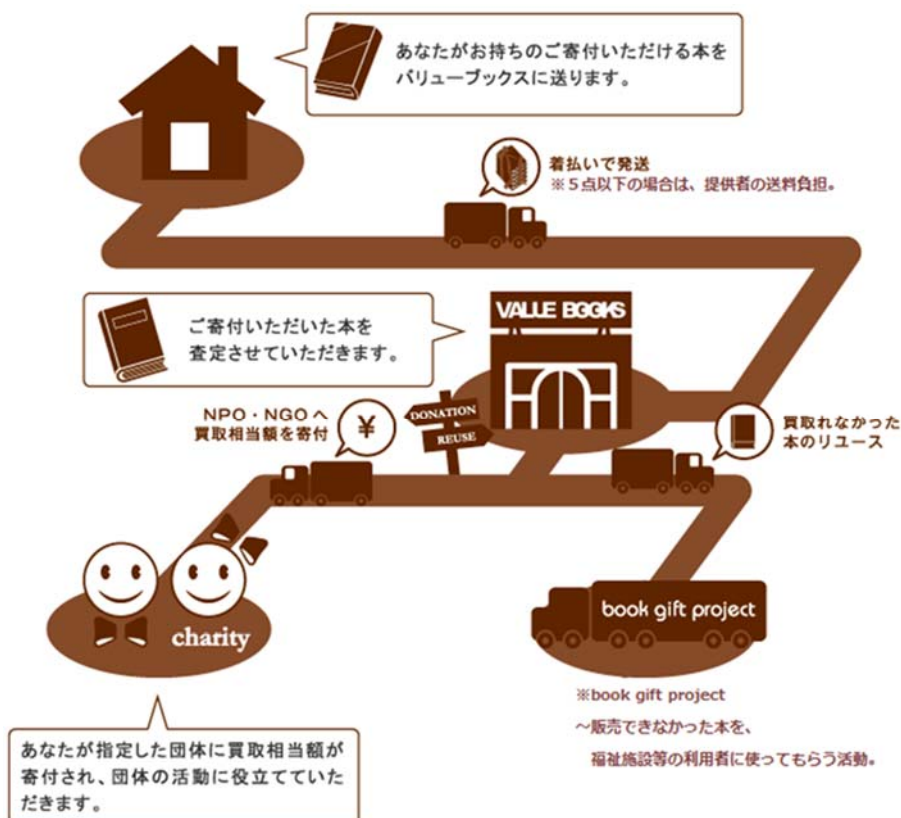
「チャリボン」は、本等の買取り及び販売を事業としている株式会社バリューブックスが、2010年より行っていた「キフボン」を発展させ、2012年3月から開始した非営利団体等（以下、「参加団体」）に対する支援プラットフォーム。古本提供者が参加団体の中から自ら寄附先を選んで、買取り相当額を寄附する仕組み。

寄附手法の特徴

古本提供者は「チャリボン」のウェブサイトにあるフォーム若しくは電話で申し込み、宅配業者の集荷によりバリューブックスに古本を送付する（5点以上の場合は送料無料）。バリューブックスは届いた本を査定し、買取り相当金額を参加団体に送金することで、古本提供者から参加団体へ寄附がなされる。なお、本に多少の汚れや書き込みがあっても受け付けるとのこと。

古本提供者は、参加団体から寄附先を選択することが可能であり、寄附先を指定した場合には古本提供者名義での寄附となる。また、全団体又はカテゴリ別の参加団体へ寄附することも可能だが、その場合は匿名での寄附となる。

古本提供者にとっては、不要な本を集荷により処分でき、加えて5点以上であれば送料が不要、さらに社会貢献に寄与できるというメリットがあるとのこと。



バリューブックスは、基本的には古本を換金するサービスを提供する企業であり、古本募集の広報は、参加団体自身が行わなければならないとのこと。そこでバリューブックスは、古本を募集するチラシ作りの支援や、ウェブサイトフォーマットの提供を行っている。若年層はウェブサイトを見てフォームから、高年齢層はチラシや広告を見て電話から申し込む人が多いとのこと。

参加団体

参加団体となるには、バリューブックスと情報交換（できれば訪問面談）を実施して決定する。団体の事務所や団体名義の口座、ファンドレイズ担当者の存在を確認。特に、①団体のミッションと本で課題解決に向けたストーリーを作れるか（ミッション基準）、②古本募集をしっかり広報する力を持っているか（ビジネス基準）、③他団体、企業と良好な関係を築けているか（ネットワーク基準）の三点について確認しているとのこと。なお、寄附を多く集めるには、上記の三点がポイントになるとのこと。

現在のところ、参加期間の定めは無く、団体側に手数料等の負担も無い。参加団体は、2014年4月までの累計で、NPO法人が75団体、大学が23校、自治体が3団体。参加団体への支援実績は、同年12月2日時点で、約613万冊、約1億3千万円となっている。

寄附者の傾向

ターゲットは、各参加団体の従来からの支援者を想定している。

古本による寄附は不要なものを捨てる代わりにできることであるため、金銭による寄附よりハードルが低いと思われる。古本から始めてもらい、その後、金銭による寄附へつながるのが理想とのこと。

また、本を多数所有する人には、自分で購入したものを売りにたくない、捨てるにたくないと思う人が多いが、中には課題解決につながるという点で、寄附であれば良いと考える人もいるのではないかとのこと。

その他の寄附手法

東日本大震災の被災地に本を送付したり、現地で活動する団体に買取り相当金額を寄附する「BOOKS FOR JAPAN」、企業や社員の不要になった本を集めて提供してもらい、買取り相当金額を古本提供企業が指定するNPO等に企業名義で寄附する「Book Donation」といった取組を実施している。

「チャリボン」

サービス開始	2012年3月
提供主体	株式会社バリューブックス
代表取締役	中村 大樹
所在地（東京事務所）	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-3-8 第五スカイビル408
URL	http://www.charibon.jp/
2013年寄附額	41,654,254円